

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372600615		
法人名	社会福祉法人 寿宝会		
事業所名	グループホーム寿宴(1F)		
所在地	愛知県豊川市府府町山ノ入93番6		
自己評価作成日	平成27年8月1日	評価結果市町村受理日	平成27年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26		
訪問調査日	平成27年9月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺は木々や川等の自然に恵まれ、春には桜、秋には紅葉と季節毎に景色を楽しむ事が出来ます。敬老会、市民館祭り、町内の祭り、認知症カフェの開催など、地域の方との交流の場も多く持っています。個別ケアを基本にその人らしさや思いを尊重した支援を常に意識し、職員間でも密に情報交換しながら、最適な支援を行っています。職員一同笑顔で常に利用者様の思いに支援を心掛け、サービスの質の向上に努めています。健康管理では協力医のもと24時間の連携体制を取っており、緊急時、夜間においても連絡が取れ、迅速な対応が行えています。また月2回の往診や状況に応じて、専門機関への個別での受診も行っています。また終末期に対する支援も行っています。ご本人様やご家族様の希望や想いを尊重し、職員が一丸となって良い最期を迎える事が出来る様、支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員同士のチームワークの良さや、利用者に対してやさしい介護を行っていることが、利用者の穏やかな表情からもうかがう事ができる。地域包括からの提案により、「認知症カフェ」を開催するようになり、レクリエーションをしたり、毎回議題を挙げて勉強会をしたりしている。ホームの屋上で福地地域の花火大会を観ることは、近隣の人の楽しみともなっている。利用者の楽しみや笑顔につながるよう外食やおやつ作り、色々なレクリエーションにも積極的に取り組んでいる。定期的な内部研修や経験に応じた外部研修を受けられるよう、職員のサービスの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務の中で、理念を念頭に、職員が同じ方向性を持ちながら、共有し実践できるように繋げている。全体会議や、フロア会議、法人の研修、朝礼などでも意見、理念を考えながら、意識付けるようにしている。	理念に沿った方針を立て、各フロア毎の目標を掲げ朝礼の中で復唱している。各フロアのチーフと看護師、管理者との会議やパート職員との会議など、全員で共有できる機会を作っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会が主催してくれる寄合の参加、近隣中学校、町内の敬老会の行事、買物、床屋の利用、散歩などを通して近隣との交流をしている。施設の花火大会(お祭り)の参加の促し、認知症の理解の講話など地域へ発信している。また月に1回認知症カフェを開催し、交流や相談等行っている。	民生委員の集まりで宣伝してもらい、知り合いの喫茶店を借りて、国府地区での「認知症カフェ」を行うようになった。その際に利用者も手伝ってお茶を出すなどをしてもらっている。今後も月ごとの議題を挙げて、継続していく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への認知症におけるサポート講習会、また地域に回覧し認知症に関する相談などを受けている。運営推進会議でも事例などを地域の人に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動報告をし、自己評価票についての理解、施設の催しの報告などし、地域との連携のサポートをして頂いている。(市民館まつりの展示作品提供、地域の情報の意見交換、利用者離設時の地域との連携など。)	地域包括センターからの提案により、認知症カフェの実現が出来た。その他に会議の中で、地域行事の様子を聞き参加している。また、災害時等には協力体制が取れることをアピールしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市町村へ入居に関する相談、制度に関する相談、施設側の情報公表についての開示等を行い、担当者とも連絡を取り合っています。認定調査の更新、事故報告書、書類提出の際は必ず市町村の担当職員と話す場を設けています。	介護保険の更新などで、役所へは頻繁に出かけている。その際に、制度のことや共用デイサービスの申請や更新のことなどで、分からないことを聞いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守り方法の徹底、また、身体拘束的において禁止の対象となる具体的な行為を理解し身体拘束を行わないようにしています。研修も非常勤を含め取り組む様になっています。また、利用者様が自由に行き来できる環境に取り組んでいます。	法人の研修やフロア会議などで、拘束についても話し合っているため職員は理解している。また、外部の研修にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、また管理者、チーフ共職員のストレス、疲労等にも配慮し、虐待に繋がらないように心がけている。職員等の接し方、言葉の使用方法など定期的に確認している。虐待についての理解も職員同士で話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	豊川市社会福祉協議会の主催の成年後見制度の研修会の参加、また、権利擁護、成年後見制度利用にあたって地域包括支援センターに協力を得、本人、家族の活用に協力を得た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する前に、重要事項の説明に沿って細かく説明している。家族からみて重要事項の説明が不利益になっていないか、など他管理者とも話し合いを行い見直しも行っている。契約後の料金の変更などは再度説明し同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様や、家族用に意見箱の設置、また、市役所の介護相談員の訪問等行い、運営に反映させるような環境づくりに取り組んでいる。家族の意見を取り入れるようにアンケートの実施も行い率直な意見を頂ける様な対応をしている。	週に3回面会に来る人がいるなど、家族の来訪は多く、要望や意見を聞く良い機会となっている。毎月職員の手書きで写真付きの手紙(今月の様子)を発行し、日頃の様子を伝えているので、家族に好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム長、チーフが話しやすい雰囲気作りをし、気づきや、意見を取り入れ働き掛ける様に努めている。また、ミーティング、個々での話し合いなどを通じ、職員の意見を取り入れるように常に努めている。	職員は、仕事の担当別での会議を多く持つことにより、情報の共有が出来るように努めている。パート職員からも意見や要望を聞き、反映できるようパート会議を新たに行う予定である。会議では話しやすい雰囲気作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に親睦会などの開催し、交流の場を作っている。資格(職務)手当などの支給体制をも整え、研修に積極的に働きかけ、また、ゆとりの持った勤務出勤など、疲労、ストレスの原因にならないような環境づくりに励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度より、外部講師を招き、役職者、生活支援技術の研修に取り組んでいる。またOJTの体制を確保し、多くの職員が研修にいける体制を整えている。、研修に行った後には、複命会など行い、各職員にも伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にての連絡協議会、またグループホームにての連絡協議会、他施設への見学、情報の交換等を行っている。東三河のグループホームでの交流会を兼ね、輪投げ大会を行った。利用者、職員の交流の場になった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前には、本人の意思、心を理解するように、職員一人ひとりが努め、また本人に会って会話を通しながら、施設での生活に慣れていただけるようにしている。フェイスシートを活用し、生活暦や、最新の情報、本人の思いを汲み取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護者が困っている事を素直に引き出せるような環境と、求めている事を職員一人一人が理解するように努めている。事前面接において、職員が家族と、本人と面会の場を設け介護士に気持ちを汲んで頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の対応として、相談者には、他事業所を紹介したり、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等に連絡をした事例もある。状況等を確認の上、信頼関係を築きながら、必要なサービス提供に繋がるような支援も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側だけの関係にならずに、生活を支援するという意識を持ち、本人の心を理解するように努めている。お互いに共に歩む姿勢で、感情をも共有しながら、生活できるような支援体制を築いていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の時には家族にも参加を促し、家族とも途切れない環境をつくり、家族の思い、利用者様の思いを理解し、家族、利用者様との繋がりを持てる様に支援している。また、家族交流会も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の生活環境を知る事に努め、それに添った環境等、生活習慣に努めている。自宅近くの商店街、お墓参りなども行き、以前の利用者様の近くの地域資源を活用している。また、遠方だがいままで通っていた通院なども対応している。	買物に出かけたついでに自宅近くまで行ったり、お墓参りや今まで利用していた理容店なども職員が対応している。また、入居してから馴染みとなったホーム近隣の理容店もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に関する事は、本人の話し方や、本人や他の利用者様との関係を常に把握し、情報提供を全職員に申し送りなどで徹底している。また、利用者同士の関係の潤滑油になるように職員が働きかけをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した時点で、家族との関係を断ち切るのではなく、他施設へ移動した利用者様の面会や、家族にも手紙を送付したりしている。また、行事等の参加も呼びかけ、継続性を続けていけるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活において、利用者様の思いを大切にし、何気ない行動、心情、細かな事まで職員同士で連携し思いの把握に努めている。把握が困難な利用者様に対しても、非言語コミュニケーションを活用し本人本位の意思を尊重している。	日頃から利用者の表情や行動を見て察したことを、記録に残し、ケアカンファレンス時に話し合い情報を共有している。その情報を基に介護計画に反映し、利用者の意向に添った支援が出来る様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーには気をつけながらも、本人の生活歴、バックグラウンドを把握するようにし、それに合ったホームでの生活に環境を近づけるようにしている。家族や、地域とも連携を図り、個別に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が、利用者様を総合的に見つめる力を養い、出来ること、現存機能についても把握し、それに添いながら職員と共に行ったり、行動できるように努めている。出来る事への趣味などもなるべく個別で対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見を尊重し、家族にも日頃から思いや意見を聞いてケアプランに反映している。アセスメントから、カンファ、モニタリングを職員全体で理解できるような体制に心がけている。カンファもこまめに行っている。	介護計画は3ヶ月毎に評価して見直し、それを基にして家族や利用者から要望など聞き取り、介護計画の更新をしている。利用者の要望を第一に考えた介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別での記録もし、日々の些細な様子も記録に残している。また、申し送りを1日2回行っており、申し送りの体制も22年度より変更した。介護計画も常に閲覧できるようにし、介護計画に沿った支援を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度起こりうるニーズに対応しながら、支援している。緊急時における受診、外泊、通院、外出等家族の状況に添いながら、また利用者様本人の意思に添いながら、柔軟に対応できる体制に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、地域の老人会の寄合参加、敬老会、公民館への作品出展、また近隣住民とは散歩を通じ、挨拶にも心がけ、保健所の講習会参加、地域包括、市役所、社会福祉協議会など多種多様な資源を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携を蜜に行い、必要な診療科目も紹介状などを書いてもらい受診している。(眼科、歯医者、皮膚科など)また、利用者様が馴染みのある医院なども受診している。Dr、家族、管理者と話し合う場も設けている。	月2回協力医の往診がある。眼科、皮膚科などの専門医には家族が通院の付き添いをしている。主治医と専門医とは事業所の看護師が仲介して、情報の共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医の医院の看護師にも健康管理表を作成し、日頃の健康管理を行っていただくと共に、ホーム内において看護師を配置している。Drと看護師と、介護職員が連携をし、また、薬剤師、管理栄養士とも適切な医療面でのバックアップができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時における手続きにおいては、協力医療機関のDrと連絡をとり、スムーズに行えるように支援している。また、入院中も本人の様子を必ず見に行き、家族と、ホーム側職員と必ず一緒に主治医のお話を聞く事している。退院にむけての支援もおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対応し、本人、家族の意思を尊重し、入所する前に家族と職員で話し合いの場を設けている。また終末期における対応も、本人、家族の希望に出来るだけ添い、看取りの対応をしている。終末期におけるケアも家族、医師、看護師、職員と連携をとりながら支援体制が出来ている。	医療行為を必要としない場合は、看取りが行える事を家族に伝えている。医師が重度化が進んできたと判断された場合は、家族と医師、職員で話し合い、本人にとっての最善策を検討しながら支援をする体制が整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の研修、また、法人内においても緊急時の研修を行っている。パートを含め職員全員が対応出来るようにしている。緊急時の対応を掲示し、敏速に対応できるように徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に対しては運営推進会議においても地域の方との連携を図り、話し合いをしている。また、消防立会いのもと、避難訓練をし、避難訓練では地域の人も参加した。法人内のBCP検討部会でも災害対策を行っている。	3月と9月に避難訓練を実施している。利用者は防災ずきんをかぶり、非常口から外に出る訓練を行っている。職員は担架の作り方や緊急連絡網の確認などの訓練を行っている。その後、反省会を開き問題点について話し合っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員側の判断で物事を考えず、利用者様の気持ちを常に考え、行動するように心がけている。また、本人のプライバシーに配慮し、その人らしさを十分理解しその場限りの言葉かけにならないように注意している。	利用者に対して優しく話しかけて、しぐさや行動にも気を付けて、人格を尊重した対応に努めている。法人内で接遇に関する研修を受講し日頃から意識付けが出来ている。また、家族アンケートでも職員の対応について聞いており、家族から良い評価をもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、本人の希望や思いを汲み取り、自己決定出来る様な言葉掛けを行っている。また上手く言葉で伝えれない方には、非言語的コミュニケーションを通して、汲み取れる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が自己決定できるような会話を常に心がけ、その時の利用者様の気持ちを大切に個別に対応している。職員が外出する時は、常に声掛けをし、一緒に買い物を行ったりしている。本人の意思を尊重し本人に選択をしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の今までの生活、身だしなみ等を理解し、希望に添った対応に心がけている。美容院も今まで行っていた美容院にて、ご家族様と協力しながら対応するなどし、その人それぞれに選択を心がけている。また、本人の欲しい服、化粧品等も一緒に買い物することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、食事に関しては、利用者様の意見を取り入れ、献立に組み入れている。また、買い物にも行き、好みの物を購入できる環境にも取り組んでいる。盛り付け、片付け等も利用者様と一緒にいき、菜園などの野菜も料理に使用している。	食事は法人からの配食となり、ごはんのみそ汁は事業所で作っている。献立は利用者様の嗜好を配慮するように努めている。おやつ作りや行事食、外食、施設での喫茶店風の食事を楽しむことが出来るような支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取、献立など、毎月給食会議を行い、検討している。一人一人の好みの物を聞き取ったりし、献立にもそれを取り入れている。むせ込み、介助用食器等も個別に利用者様にあった物を検討したり、管理栄養士の協力も得支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは訪問歯科医の元、指導を受け対応したり、往診してもらっている。また、嚥下障害のある方など、ハミングッドなどを使用し個別に対応をしている。歯磨きの仕方等も利用者様に教え、なるべく出来る事は本人に促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	すぐにオムツを使用する事を促すのではなく、なるべく一人一人の自尊心に配慮し、自然排便を促している。個別に排泄に関しては話し合いのもと、また家族の意見も取り入れ慎重に対応している。	職員は利用者個々の排泄パターンを把握しており、時間を見計らいトイレに誘導している。夜間は3時間ほどで見回り、トイレに誘導したり、ポータブルトイレを利用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを毎日記録し、水分、運動、センナ茶などで対応している。また、水分補給にも気をつけ、散歩、体操などをし、腸の動きを良くするように心がけている。ヨーグルトなども個別に購入し、便秘改善を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望、清潔感を考え入浴を行って頂いている。異性の職員が行う場合も利用者様の心情を心がけ対応している。機械的に入浴するのではなく、落ち着いて入浴できるように、また、その日、本人の意思を聞いて入浴している。	入浴は10時30分ごろから3名程の入浴として、概ね3日に1度の入浴となっている。その他に、利用者の要望でシャワー浴をする時もある。現在入浴拒否は無く、一人ずつゆっくりと入浴して貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく昼間は活動し夜は睡眠を促し、1日の生活ペースを個々に保てるようにしている。不眠等に関しては、家族、Drと相談しながら調整等も考えている。体調に合わせ昼間の休息を促す事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、変更があった場合は申し送りを徹底し、また服薬管理は常に誤薬がないか意識し、Drの指示に従い、薬の変化に伴う、症状なども報告しています。職員もそれぞれの薬の目的、副作用、などを把握するように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を把握し、本人の活力的になる事を日々探しながら支援している。利用者様全体で行う行事や、個別で行える事を通して本人の気持ち、行いたい事を尊重し、出来る事は支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様の希望に合わせ、個別での外出も行っている。また、散歩等もなるべく促し、地域との交流に努めている。買物、外食、全体行事などや、個別対応など、できることは行っている。状態に合わせ、車イスでの外出なども心がけている。	日常的に近隣の散歩や買い物に出かけたり、ホームの庭にあるプランターの花の世話など戸外に出る機会が多い。また、利用者が希望する個別の外出も増えてきている。月1回は外食に出かけたり、年4回はデンパークなど少し遠方への行楽に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は本人の希望などを配慮し、家族と相談の上決めている。少額の金銭でも安心感や、満足をされる利用者様には実際に本人が持っている。また、買物等へ行った場合でも本人が支払うように促している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、手紙など家族へ送るように職員から促したり聞いたりしている。また家族へ連絡、お話等する電話も応接室にて、気兼ねなく電話できるような環境に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に対して危険や不安を与える環境にならないように配慮している。室内には温度計を設置したり、匂いなどを配慮し換気、空気清浄機を設置している。共有の空間も居心地よく過ごせる様に利用者や相談し模様替えなど行っている。	廊下の各居室入口の壁面に、防災ずきんが掛けてある。また切り絵など工夫された作品が飾ってあり、ユニットの特徴が出ている。食堂や居間は窓が大きく、そこから見る景色から四季を感じることが出来る。利用者はゲームをしたり、テレビを観るなどそれぞれ居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や、居間には畳のくつろげるスペースもあり、また玄関先にソファを置きくつろげるスペースがある。利用者様の憩いの場所となっている。庭にもベンチ、テーブルを置き、そこでおやつタイムなどを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人には自由にお部屋の空間を利用して頂けるように、自宅で使い慣れた物などを部屋にもって来て貰っている。環境を整え本人らしい空間を提供している。	居室は机、イス、時計、写真、観葉植物などを置き、個性的な部屋作りをしている。職員は、居室の掃除などを行い、清潔を保つことで、居心地良く過ごせるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様のそれぞれの身体状況等を把握し、本人が不安や、混乱が起きないような環境づくりをしている。失敗や、不安、混乱等を起こした場合は職員同士で話し合いをし改善に努めている。		